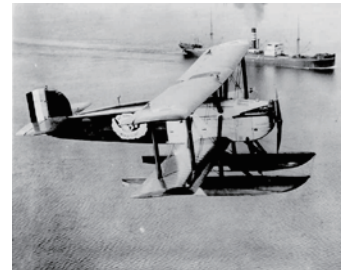


佐吉の蓄電装置(佐吉電池)その②

蓄電装置の発明に研究費・懸賞金を寄付

1925年、豊田佐吉は画期的な「蓄電装置」(蓄電池)の発明に100万円の懸賞金を贈呈するため、帝国発明協会に懸賞金贈呈の条件や方法について調査を依頼しました。



ダグラス機

そのきっかけは、1924年3月17日から9月28日までの176日間、実飛行時間351時間11分で、アメリカ陸軍航空隊のダグラス機が初めて成し遂げた世界一周でした。日本は、アリューシャン列島からインドシナ、インド方面に向かう飛行経路の途中にありました。

佐吉は、この世界一周飛行に刺激され、移動用蓄電装置の発明に懸賞金を贈呈することを思い立ったのでした。したがって、研究の対象は自動車や飛行機の動力源になる蓄電装置を想定していました。しかし、このような蓄電装置の発明は大変困難であり、帝国発明協会での検討の結果、まずは研究費の補助を行い、実現可能な時期が到来したとき、改めて100万円の懸賞金を寄付することになりました。

1925年10月15日に帝国発明協会との間で締結された契約の内容は、5年間で50万円を基金として寄付し、その基金の利息が年間3万円に満たない場合、不足額を佐吉が負担するというものでした。また、蓄電装置発明奨励事業の一環として、帝国発明協会内に蓄電池を研究する豊田研究室を設置し、蓄電装置開発計画の推進中心母体としました。

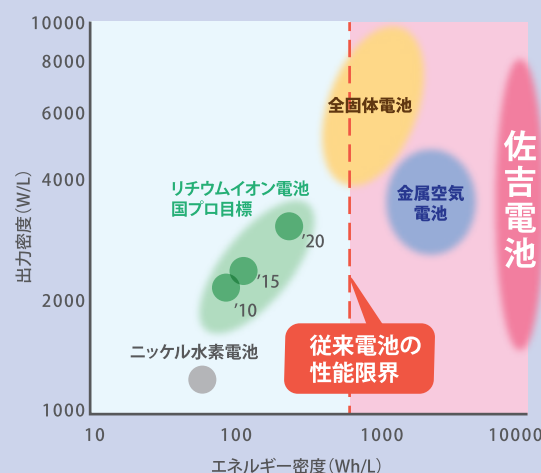
とてつもない目標値を掲げた佐吉電池

佐吉が求めた電池の性能は、飛行機に載せて太平洋をひとつ飛び出来る容量・パワーというとてつもない目標値でした。

佐吉電池の諸元

- 動力:100馬力
 - 連続稼働時間:36時間を持続し
 - 重量:60貫(225kg)
 - 容積:10立方尺(0.28m³/約75×75×75cm)
- 以下の蓄電池(二次電池)

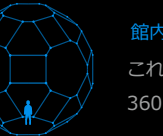
現在の電池と佐吉電池を比較してみると...



館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <http://www.tcmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.